



導入・活用マニュアル

お客様の業務内容やBCPに応じて適切な防護服の備蓄をご提案いたします。

デュポン社では、お客様の業務内容や作業に従事される人員体制などを詳細にお聞きした上で、防護服の適切な備蓄をご提案しております。お気軽にご相談ください。

装着・脱衣時の注意事項

装着時

- ◎この防護装備で全ての病原体から防護できるわけではありません。安全な作業のためには、病原体が持つリスク要因(感染経路や危険度)、その他の安全作業手順などを組み合わせて、総合的な安全対策が必要です。
- ◎ヒートストレスにご注意ください。
- ◎適切な防護装備の運用のためには事前の訓練が必要です。

脱衣時

- ◎除染のために消毒用エタノールなどを服に噴霧すると即座にしみ込みます。危険物質が服に付着した場合は、なるべく静かに早く脱ぐことが必要です。
- ◎この手順はあくまで一例です。汚染状況や環境状況によって適切な方法を採用してください。
- ◎使用後の防護具は全て廃棄してください。使用後は性能が劣化します。

⚠ 廃棄について

タイベック®は、ポリエチレン100%の不織布であり構造上ハロゲンを含まないため、ポリ塩化ビニルと異なり、焼却してもダイオキシン及び有害ガスを一切発生しません。ただし、汚染された防護服衣料は汚染廃棄物と同じ方法で廃棄されるべきであり、必ず国及び各自治体の規則に従って処理してください。

⚠ ご注意

- 本情報は、デュポン社が信頼に足ると信じる技術資料に基づいたもので、新たに知識や経験が追加された場合には改定されます。
- デュポン社はこの情報に起因するいかなる結果に対する保証、義務、責任を負うものではありません。毒性レベルの決定や正しい個人防護具の選択は利用者の責任です。

タイベック®ソフトウェアは、使い切り防護服です。

製品安全情報はリクエストベースでご提供します。

防護服の使用範囲は広範囲にわたっており、多くの分野では補助具(手袋、靴、呼吸用保護具)同様、特別な衣服の使用が要求されます。それらの衣服や補助具等の適切な組み合わせや選定は使用者ご自身の責任で行ってください。タイベック®ソフトウェア防護服は使い切りの防護服です。又、タイベック®ソフトウェア防護服は耐熱性及び防炎性はありません。火気や高温の近く、又は爆発の危険性がある環境下でのご使用は避けてください。当社は不適切な使用に対して、いかなる責任も負いません。当社或いは当社代理店は、使用用途に適したタイプの防護服の選定をお手伝いいたします。

総輸入販売元

旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ 株式会社

〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー

URL <https://www.tyvek.co.jp/pap>

☎0120-300355 E-mail:Tyvek.Japan@dupont.com

デュポン™、デュポンオーバル®、および™、SM、又は®表示のあるすべての標章は、別段の記載がない限り、DuPont de Nemours, Inc.の関連会社の商標又は登録商標です。

Copyright © 2022 DuPont-Asahi Flash Spun Products Co., Ltd. All rights reserved.



Ⓛ OUPONT Ⓛ

Tyvek®

For greater good™



Ⓛ OUPONT Ⓛ

Tyvek®



タイベック®ソフトウェアを パンデミック発生時に 正しく活用していただくために。

新型インフルエンザのパンデミック時には、欠勤社員の大量発生、業務中の感染者との接触、事業所内での突発的な感染者対応など、想定外のさまざまな混乱が予想されます。

このマニュアルでは、パンデミック時においても業務を継続しなければならない事業所の皆様のために、タイベック®ソフトウェアをはじめ、防護具の導入計画と使用方法についてまとめました。新型インフルエンザに対応できる適切な防護体制を確立するためにお役立てください。



導入計画における3つのポイント

タイベック®ソフトウェアをはじめ、新型インフルエンザ対策防護具の導入計画を立案するにあたって、危機管理担当者の皆様や経営者の方々に押さえていただきたいポイントとして、「コスト」「リスク」「ベネフィット」の3点があります。

導入計画における3つのポイント

タイベック®ソフトウェアの導入計画

- STEP 1 使用時を想定した備蓄スタイルの選択
- STEP 2 必要となる防護具数の計算
- STEP 3 備蓄スペースの検討
- STEP 4 運用ルールの策定

タイベック®ソフトウェアの使用方法

- STEP 5 新型インフルエンザのフェーズをチェック
- STEP 6 感染者との接触リスクをチェック
- STEP 7 防護具の装着・脱衣場所の設定
- STEP 8 防護具の廃棄方法と廃棄ボックスの設置
- STEP 9 タイベック®ソフトウェアの装着方法
- STEP 10 タイベック®ソフトウェアの脱衣方法

ポイント1 Cost

無駄のない備蓄を実現する

防護具の備蓄にかかる費用は決して小さくはありません。無駄なく、必要最低限の備蓄を実現するために、パンデミック発生時の業務体制など想定しておくべきいくつかの項目があります。

- パンデミック時の人員体制、防護具の使用状況は？
- 必要な防護具の数量は？
- 防護具を備蓄するスペースの確保は？

ポイント2 Risk

感染リスクを知り、未然に防ぐ

防護対策を行う理由や感染によるリスクを全社員が理解することはもちろん、防護具の着用訓練の実施、着用時期のルール化など、防護対策を正しく遂行できる体制づくりも重要です。

- 必要な防護対策は？ 対策の未実施が招くリスクは？
- 防護具の使用方法は？ 着用タイミングは？
- 従業員が感染した場合の事業者責任とは？

ポイント3 Benefit

防護対策がもたらす効果

パンデミック下においても、安全に業務を遂行できることがもたらす効果を、全社員で認識・共有しておくことが、導入計画に対する社内の理解促進につながります。

- 従業員の健康・安全が確保できる
- パンデミック時にも事業活動を維持できる
- 企業の社会的評価・信用の向上につながる



STEP1 使用時を想定した備蓄スタイルの選択

タイベック®ソフトウェアの導入には、防護服単体でご購入いただく方法と、マスクや手袋、ゴーグルなどを組み合わせたキットでご購入いただく方法があります。製品の選択については、迅速かつ無駄なくご利用いただくためにも、パンデミック発生時の業務体制に照らし合わせて導入していただく必要があります。



JIS T 8115 : 2015
化学防護服の
タイプ4,5,6 適合品です。
タイプ5,6 についての
第三者認証取得しました。



JIS T 8115 : 2015 に関する第三者認証取得
タイベック®ソフトウェアⅢ型



ICK-3キット

※キット内容は、都合により変更になる場合があります。
詳しくは、アゼラス株式会社へお問い合わせください。

業務環境による備蓄例

業務環境	備蓄スタイル	装着イメージ
日常的に新型インフルエンザ感染者と接触する、または感染者のいるエリアを訪れる可能性がある	キットで導入して保管	常時すべての防護具を装着
新型インフルエンザ感染者と接触するかは不明だが、日常的に大勢の人と接触する	キットで導入して保管	常時すべての防護具を装着
時折、新型インフルエンザ感染者と接触する、または感染者のいるエリアを訪れる可能性がある*	それぞれの防護具を単体で導入して保管	状況に応じて必要な防護具を使用

※新型インフルエンザは、ウイルスに対する免疫を持つ人が存在しないため、パンデミックが発生した場合、約1~2週間で世界中に感染が広まると予想されています。従って、フェーズ4が発令された場合は、いつでもすべての防護具を着用できるよう準備しておくことが望ましいといえます。

使用者のサイズにフィットする防護具の備蓄を

新型インフルエンザの防護具は、使用者のサイズと合っていないと十分に効果を発揮することができません。導入時には、事前に防護具を使用する従業員のリストアップを行い、適切なサイズの防護具を取り揃えた後、一人一人に配布し、身体、保護する部分に合っているかを確認するとよいでしょう。

STEP2 必要となる防護具数の計算

タイベック®ソフトウェアやマスク、ゴーグルなどの必要数は以下の計算方法で備蓄数の目安を算出することができます。

$$\text{従業員数} \times \text{最少稼働人員率} \times \text{1日の着用回数} \times 60 (\text{流行日数})$$

(例) 従業員1,000人の企業が、4割の人員で事業を継続し、1日1着使用した場合、
 $1,000 \times 0.4 \times 1 \times 60 = 24,000$ となり、24,000セットの防護具が必要となります。

【使用期限】タイベック®ソフトウェア及び ICK-3キットには使用期限が設けられております。

●タイベック®ソフトウェア単体...3年 ●ICK-3キット...2年(タイベック®ソフトウェア単体は3年)

STEP3 備蓄スペースの検討

タイベック®ソフトウェアをはじめ、新型インフルエンザ対策の防護具を導入する際には、継続的に備蓄スペースを確保しておく必要があります。備蓄場所は、使用時の利便性(取り出しやすさ)や人員体制などを考慮して検討しましょう。

タイベック®ソフトウェア備蓄必要スペースの目安

400人、60日分の防護具を備蓄するのに必要なスペースは、

タイベック®ソフトウェア単体×240ケース

約8畳のスペースで備蓄可能

※タイベック®ソフトウェア100着入り1ケース
(600mm×380mm×450mm)

ICK-3キット×1,200ケース

約32畳のスペースで備蓄可能

※ICK-3キット20個入り1ケース
(580mm×420mm×370mm)

※1畳は江戸間サイズ(880mm×1,760mm) 天井高は2,400mmで計算

STEP4 運用ルールの策定

防護具は正しく装着、使用しないと十分な効果が発揮されないため、従業員が適切に着用できるよう、運用ルールを策定しておく必要があります。運用ルールでは、防護具の装着タイミングや、使用条件、装着・脱衣方法、使用時の注意点などをまとめ、社内研修などを実施し説明します。

その際、防護具の適切な使用は、パンデミック時の安全な業務継続を実現し、ひいては企業の社会的評価や信用の向上につながることを、従業員全員で共有しておくことが重要です。

突発的な感染者発生時のために、今から対策チームの設置準備を

新型インフルエンザの感染者は事業所内においても突然発生する可能性があります。感染者が自分自身で医療機関に行くことができない場合などは、事業所内で一時的に他の従業員が介抱に当たる事態も想定されます。その際、介抱者は感染予防のためにマスク、ゴーグル、タイベック®ソフトウェアなどの防護具を装着しなければなりません。感染者からの二次感染を防ぐためにも、今から感染者発生時の対策チームの設置準備を進めておくことが大切です。



STEP5 新型インフルエンザのフェーズをチェック

新型インフルエンザはWHO（世界保健機関）の想定に基づいて、その流行段階が6つのフェーズに分類されています。現在は未発生であり、「鳥からヒトへの感染がみられる」フェーズ3の段階にあります。

新型インフルエンザのフェーズ

区分	定義	フェーズ
前パンデミック期	ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、ヒトへ感染する可能性を持つ型のウイルスを動物に検出	1
	ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、動物からヒトへ感染するリスクが高いウイルスが検出	2A (国内非発生) 2B (国内発生)
パンデミックアラート期	ヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、ヒトからヒトへの感染は基本的に無い	3A (国内非発生) 3B (国内発生)
	ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、感染集団は小さく限られている	4A (国内非発生) 4B (国内発生)
	ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認され、パンデミック発生のリスクが大きな、より大きな集団発生がみられる	5A (国内非発生) 5B (国内発生)
パンデミック期	パンデミックが発生し、一般社会で急速に感染が拡大している	6A (国内非発生) 6B (国内発生)
後パンデミック期	パンデミックが発生する前の状態へ、急速に回復する時期	—



*事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン

新型インフルエンザの発生はヒトとヒトの間で感染が起こったフェーズ4Aからです。4Aでは日本国内は非発生ですが、感染は約1〜2週間で世界中に広がるとされていますので、4A以降はいつでも防護具を着用できるよう準備が必要です。

最新のフェーズを知るには？

現段階のフェーズは、厚生労働省のWEBサイト内の「感染症情報」における「新型インフルエンザ」ページで知ることができます。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/>

STEP6 感染者との接触リスクをチェック

新政府がまとめた「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン」では、新型インフルエンザの感染患者や感染疑いのある人の2メートル以内に近づく可能性がある場合、二次感染のリスクが高いとしています。従ってタイベック®ソフトウェアの着用タイミングを、2メートル以内に近づくかどうかで判断する方法もあります。

行動環境と感染リスク

リスク	行動環境
高	① 新型インフルエンザに感染した(疑い例も含む)人の血液などの体液飛散の可能性がある
	② 新型インフルエンザと診断された人の2m以内に近づく可能性がある
中程度	③ 発熱や咳などの症状を有し、新型インフルエンザに感染した可能性が否定できない人の2m以内に近づく可能性がある
	④ 通常はないが、突発的な状況でのみ、発熱や咳などの症状を有する人の2m以内に近づく可能性が短時間ある
低	⑤ 発熱や咳などの症状を有する人に2m以内に近づく可能性がない
	⑥ 症状のない人にも通常2m以内に近づく可能性がない



*事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン 「感染リスクに応じた感染予防・防止対策と保護具」より抜粋

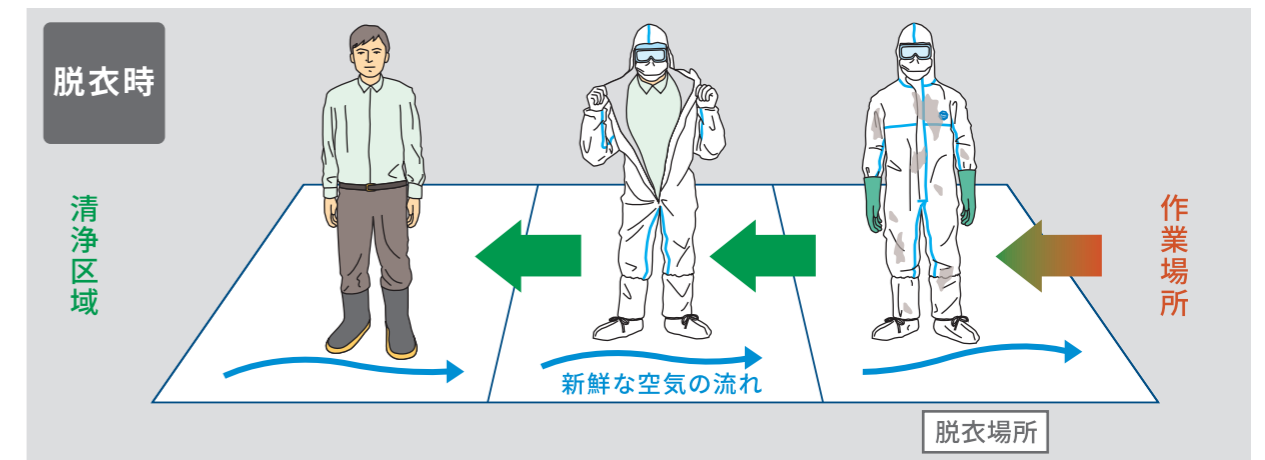
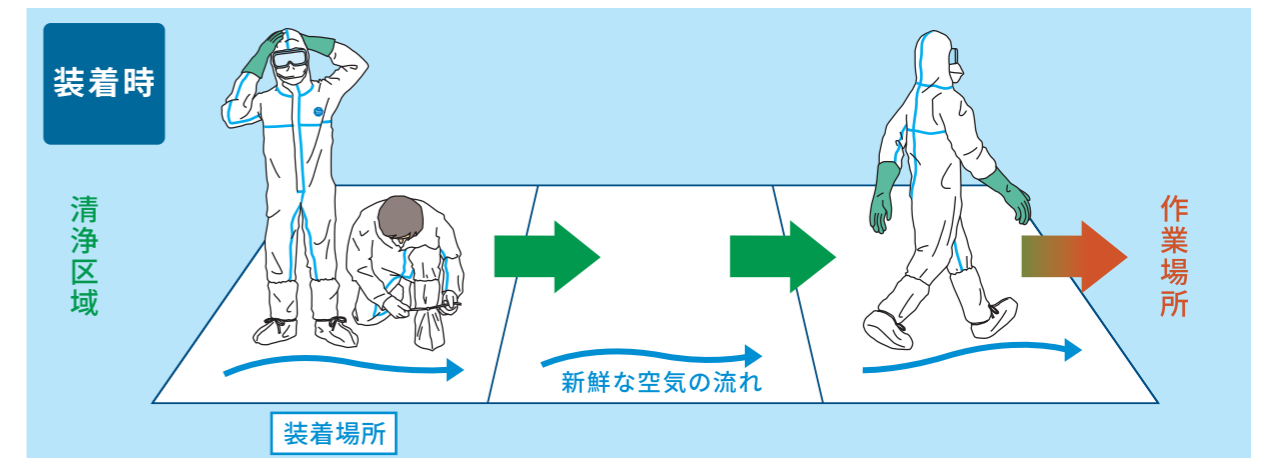
STEP7 防護具の装着・脱衣場所の設定

パンデミック時にタイベック®ソフトウェアやその他の防護具を使用するにあたっては、事業所内で感染の拡大が起こることのないよう、万全を期す必要があります。

汚染管理

タイベック®ソフトウェアなどの防護具を使用する際は、装着場所と脱衣場所を必ず区分します。脱衣場所は汚染されたエリアと考え、従業員が誤って防護具の装着なしに入室しないようにします。また、その逆に使用した防護具を装着したまま、装着場所に入室することも禁止します。なお、装着場所と脱衣場所は隣合わせではなく、それぞれの間にもう1室設けるようにします。

新鮮な空気が装着場所から脱衣場所に流れるような位置関係が理想的です。



STEP8 防護具の廃棄方法と廃棄ボックスの設置

使用した防護具は「感染性産業廃棄物」として、消毒、滅菌して廃棄することをお勧めいたします。詳しくは環境省の廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアルをご参照ください。全国展開している事業所などの場合は、自治体によって廃棄方法が異なる場合がありますので、事前に各自治体や保健所までお問い合わせください。また、防護具からの二次感染を防ぐために、手を使用しないで開閉できるタイプの廃棄ボックスを汚染区域もしくは準汚染区域内に設置することをお勧めいたします。

STEP9 タイベック®ソフトウェアの装着方法

タイベック®ソフトウェアをはじめ、各防護具には装着の順序があります。業務中の感染をきちんと防ぐためにも、装着方法と順序をしっかりと覚えましょう。

⚠️ 注意事項
防護装備の着脱・使用にあたっては裏表紙の「装着・脱衣時の注意事項」を必ずご確認ください。

装着時のポイント

- ・感染経路を断つために、口、目の粘膜、皮膚などを覆う。
- ・必要に応じて手袋と防護服などの接合部は、テープを貼るなどの処置を行う。

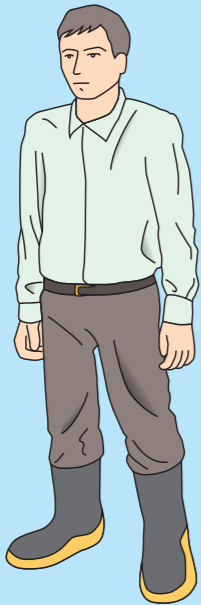
着衣は必ず作業員2名以上でチェックをしながら行うことをお勧めします。

脱衣時のチェックポイント

- | | | |
|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> 使用済みの製品を使用していないか | <input type="checkbox"/> 肌が露出していないか | <input type="checkbox"/> マスクやゴーグルのバンドはフードの内側にあるか |
| <input type="checkbox"/> 防護具に破損はないか | <input type="checkbox"/> マスクやゴーグルはフィットしているか | |
| <input type="checkbox"/> 適切なサイズのものを使用しているか | <input type="checkbox"/> ファスナーカバーはしっかり閉じているか | |

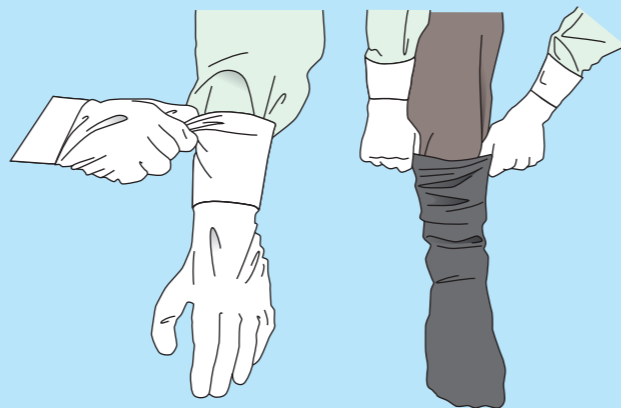
1 インナー

汗を吸い取り、動きやすい服装にします。



2 手袋、ソックスの着用

インナー手袋をはめます。ソックスはズボンの上に被せてはきます。



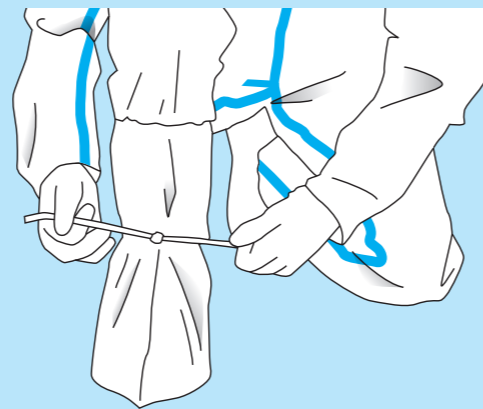
3 タイベック®ソフトウェアの着用

両足、両腕を通し、ファスナーを首の下あたりまで閉めます。



4 シューズカバーの着用

靴を履き、シューズカバーを装着します。シューズカバーはタイベック®ソフトウェアの裾を覆い、紐で結びます。



5 マスク、ゴーグルの装着

必ずフィットテストを行い、隙間のないように装着します。ゴーグルは事前にゴムバンドを調節してからかけます。



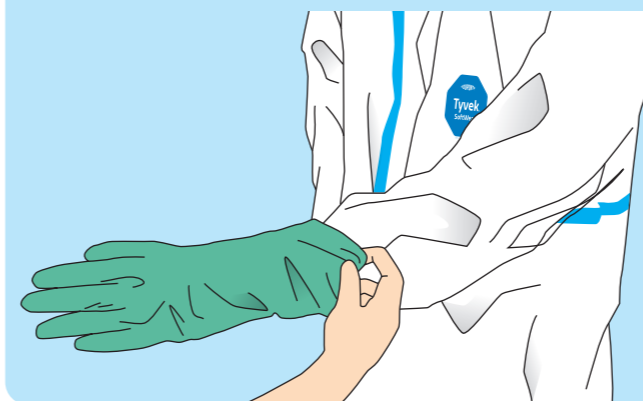
6 防護服のフードを被る

フードをかけるときに、髪の毛が出ないように深く被ります。あごの下までファスナーをしっかりと上げます。ファスナーを密閉するようにファスナーカバーを口元部分まで貼り付けます。

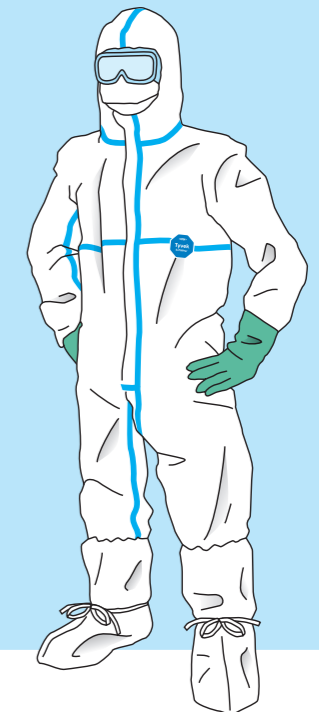


7 アウター手袋の装着

タイベック®ソフトウェアの袖の上にくるように深くはめます。



8 完成



STEP10 タイベック®ソフトウェアの脱衣方法

タイベック®ソフトウェアなど防護具の脱衣は、ウイルスが付着している危険性があると考え、慎重に行います。装着時と同様に、脱衣方法と順序をしっかりと覚えましょう。

⚠️ 注意事項
防護装備の着脱・使用にあたっては裏表紙の「装着・脱衣時の注意事項」を必ずご確認ください。

脱衣時のポイント

- ・汚染度の高いものから外す(アウター手袋、シューズカバー)
- ・汚染されている箇所(外側面)が手や髪、顔などに触れないように外す。

脱衣時も作業者2名以上でチェックをしながら行うことをお勧めします。

脱衣時のチェックポイント

- | | | |
|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> 専用の廃棄ボックスが設置されているか | <input type="checkbox"/> 防護服を脱ぐときにインナーに汚れが付着していないか | <input type="checkbox"/> インナー手袋の消毒を行なったか |
| <input type="checkbox"/> アウター手袋やシューズカバーの消毒を行なったか | <input type="checkbox"/> ゴーグル、マスクを最初に外していないか | <input type="checkbox"/> 脱衣後、手洗い・うがいを行なったか |

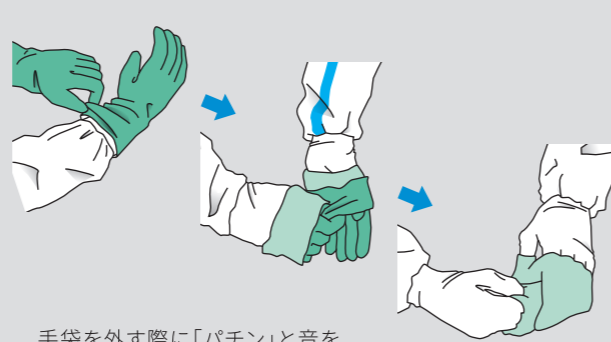
1 事前準備

シューズカバー、アウター手袋の消毒を行い、シューズカバーのひもを解きます。



2 アウター手袋を外す

片方の手袋を裏返ししながら外します。裏返った手袋で、もう一方の手袋をつかみ、同様に裏返ししながら外します。

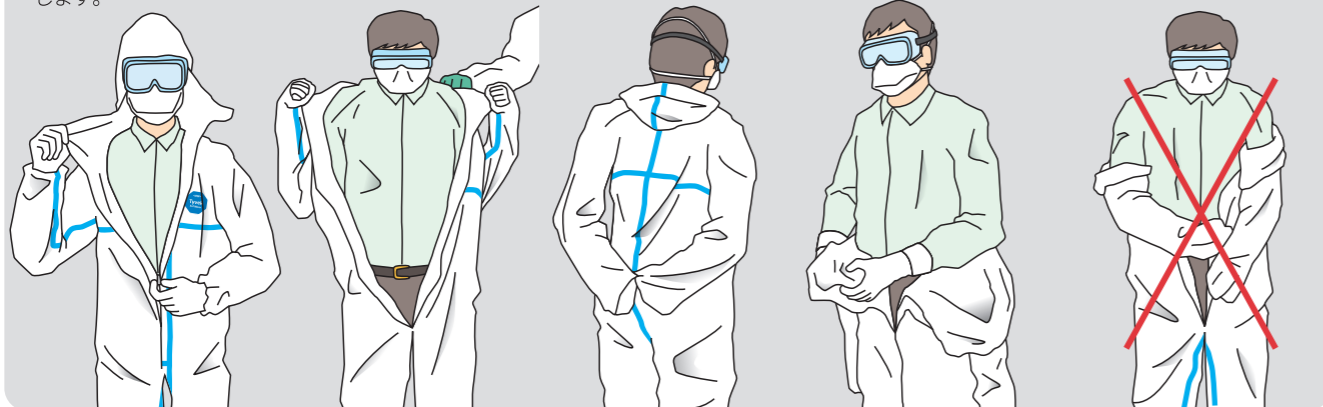


手袋を外す際に「パチン」と音を立てないように静かに外します。

3 タイベック®ソフトウェアを脱ぐ①

- ① 前ファスナーを一番下まで下ろし、皮膚や毛髪に触れないようフードを外します。
- ② 介助者の手を借り、肩から脱ぎます。
- ③ 手を袖の中に入れ、後手に片方の手を脱ぎます。
- ④ 両手を脱ぎます。

悪い例
腕を交差させるとインナーにウイルスが付着する可能性があります。



4 タイベック®ソフトウェアを脱ぐ②

表を内側に丸め込むように脱ぎ、シューズカバーも一緒に外します。インナー手袋はまだ外さないようにします。



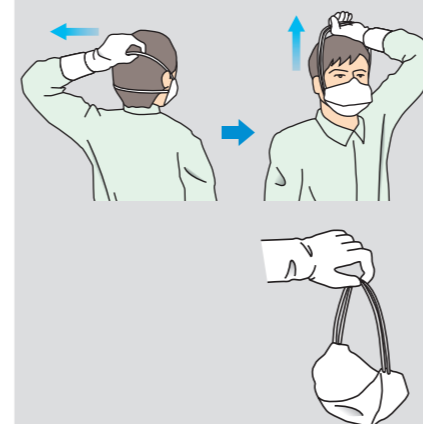
5 ゴーグルを外す

衣服に外側の面が触れないように、注意してゆっくり外します。



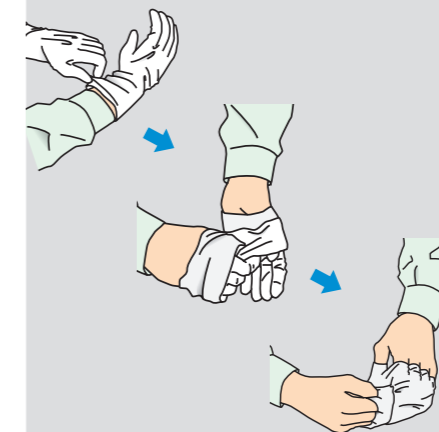
6 マスクを外す

マスクの表側に手を触れないように頭ひもをつかんで外します。



7 インナー手袋を外す

表面を消毒した後、アウター手袋同様の方法で裏返ししながら手袋を外します。



8 完了

